

正義について考える（校則を糸口にして）

通番	区分	テーマ	ねらい・概要	スライド	使用教材
	I・II		生徒の問いに向きあう 校則を糸口に正義について考える。自由を正義とする価値観 同調圧力についても考える		

時間	スライド	ファシリテーション・生徒の活動・留意点など
10分	<p>校則について考える</p> <p>まとめとふりかえり</p>  <p>高校生この髪型で問題はあるか？ 理由とともに答えてください</p>  <p>問題あり ＝白カード ＋その理由 問題なし ＝黒カード ＋その理由</p> <p>1990年代前半、市内の中学校の卒業アルバムは、丸刈りの男子中学生たちの笑顔であふれていた。神戸市教育委員会によると、80年代前半まで多発していた校内暴力を背景に、校外で中学生を見分けやすくするため、全ての市立中学校で丸刈りの校則が存在した。</p> <p>4. 頭 髪 ◎ 男子は丸刈りにする。 頭には髪を伸ばし放題とする「物みづから」の風潮が広がった。 ◎ 女子は髪型を伸ばし放題にする「物みづから」の風潮が広がった。 ◎ 髪型は自由にする。ヘアアレンジ等の流行も目立つ。</p>  <p>昭和のツツバリ世代</p>  <p>90年代 ヤマンバギャル</p>	<p>「校則」を糸口にして「正義について」考える機会を持つ</p> <p>ワーク 「高校生、この髪型で問題あるか？」の問い → 理由と共に答える</p> <ol style="list-style-type: none"> 問題ない 理由 本人の自由だから 問題あり 理由 こわい 高校生らしくない <p>校則について、現時点だけでなくこれまでの流れを含めて、歴史的に振り返ってみる 1990年代、中学生の男子は全員坊主（丸刈り）という校則があった</p> <p>校則違反の姿も年代によって異なってくる</p> <p>「流行」にも大きく影響されてきた</p>

20分

校則 生徒側のエネルギー

- 1 反抗心 勇気の証
- 2 自己顕示欲
- 3 おしゃれ 今だけ

渋谷のメイク変遷(2000年と2020年の比較 モデルは同一人物)



カネキウ化粧品

校則 学校側の観点

- 1 学びの場 TPO
- 2 個人と集団 秩序
- 3 責任の所在 未成年

匿名性と連帯責任

校則制定の法的根拠

学校教育法は「校長及び教員は、教育上必要があると認めるときは、生徒に懲戒を加えることができる」とされ、懲戒権の行使のための基準が必要となり、その基準として校則が必要となります。そこで法令上、懲戒権の存在を根拠に、学校は校則を制定できると考えられます。

【大阪の黒染め校則訴訟】

生徒の髪(髪色)は、本学舎の装束の禁止などの校則は、教育目的を有したものと認めないと主張しました。また、仮に教育目的上必要な校則だったとしても、黒染めを何度も繰り返させることは、組織運営を引き起こすと問題があるので、手段も妥当とは認めないと主張しました。これに対して、裁判所の判断は、被告(府側)の主張には基づいたもので、原告は必要な事項を校則等によって一方的に制限し、これによって生徒を規律する懲戒権の機能を有しており、生徒も学校の規律に服することを義務付けられる、としました。そのうえで、本件の校則も、社会通念に照らして合理的なものであり、学校の発達の範囲内のものとして違法とはいえない、と判断しました。

問い

他人に迷惑をかけなければ、何をしようとする個人の自由だ

- 1 そう思う 2 どちらかというと思う
- 3 どちらかというと思う感わない
- 4 そう感わない 5 わからない

ロイロ アンケート集計へ記入してください

他人に迷惑をかけなければ何をしても自由だ



30分

校則に従わない「理由」について

生徒側の視点

「おしゃれ」の時代による変化

校則の論理
学校側の視点

法的な根拠について

大阪；頭髪 黒染めに関する訴訟と法的な判断

調査・アンケートを実施
「他人に迷惑をかけなければ何をしても個人の自由だ」

世界各国との比較；日本は肯定的な意見が少ない

本校での調査結果

- 高校生は比較的肯定的意見が多い
- 教員は否定的意見が多い

40分

勝手な行動する奴は許せない！

幼い頃から「自分勝手な行為をしてはいけない」と叩き込まれてきた日本人には、自分勝手な人を見ると、「私たちはこんなにも我慢をして生きているのに本能の赴くままに行動する奴は許せない」「個人の勝手な行動」への強烈な嫌悪感が、そのまま人格攻撃につながっているのだ。

この国では、「個人の勝手な行動」は万死に値する重罪なのだ。そして、このような傾向は社会がギスギスして余裕がなくなるとさらに強くなる。わかりやすいのが、タレント・キンタローさんの「ぶつかり男」被害だ。露月で身置のキンタローさんが街を歩いていると、彼女めかけて意図的にぶつかってくる男性が何人もいたというのだ。

妊娠中に不倫した夫を「奥さんがかわいそう」とボコボコに叩く人がたくさんいる一方で、日本社会では妊娠中の女性や、子育てに苦勞する母親を目的にして攻撃をする人もたくさんいるのだ。

街中でベビーカーなどを押していれば、ほぼ間違いなく人の往来に影響を与えてしまう。意図しなくても周囲に「迷惑」をかけてしまうのだ。

ここで先ほどの調査を思い出してほしい。我々は「他人に迷惑をかけなくとも、個人の勝手な行動が許せない」という国民だ。

みんな迷惑をかけないように、自分勝手な行動を慎んでいるのに、なんでこの女は妊婦や子連れというだけで、こんな自分勝手な行動をするのだ。ふざけるな。

このように「みんな」のために、「自分勝手な行動を控える」ということを教え込まれた人たちが、大人になるとどうなるか。自分勝手な行動をする人間が増えてたまらなくなる、のではないのか。自分勝手に満員電車でベビーカーを押すなんてことに執念を抱くのではないのか。このような「個人の自分勝手な行動」への強烈な嫌悪が日本で最近話題になる「不寛容社会」の根っこにある、と筆者は考えている。

今日の一枚 「同調圧力」



問い

最近、いらしたことはありますか？
また、込み合った電車内でベビーカーで乗り込む人やノロノロ歩く老人に対して、いらついたり、攻撃したりする人についてあなたは、理解できますか？何か感じたり、考えたりすることがあればありますか？
(グループで話し合っ、そこで感じたり考えたことを言語化してください)

幼い時から、「勝手な行動するものは許さない」という圧力が叩き込まれている

- ・バスやエレベーターでベビーカーを押している人
 - ・妻が妊娠中に不倫をした夫
- みんなが「自分勝手な行動を控えている中で、それを破る人は絶対に許せない」という心情があるのではないか

→ 「同調圧力」にも通じる

ワーク
自分のことを振りかえって考えてみる